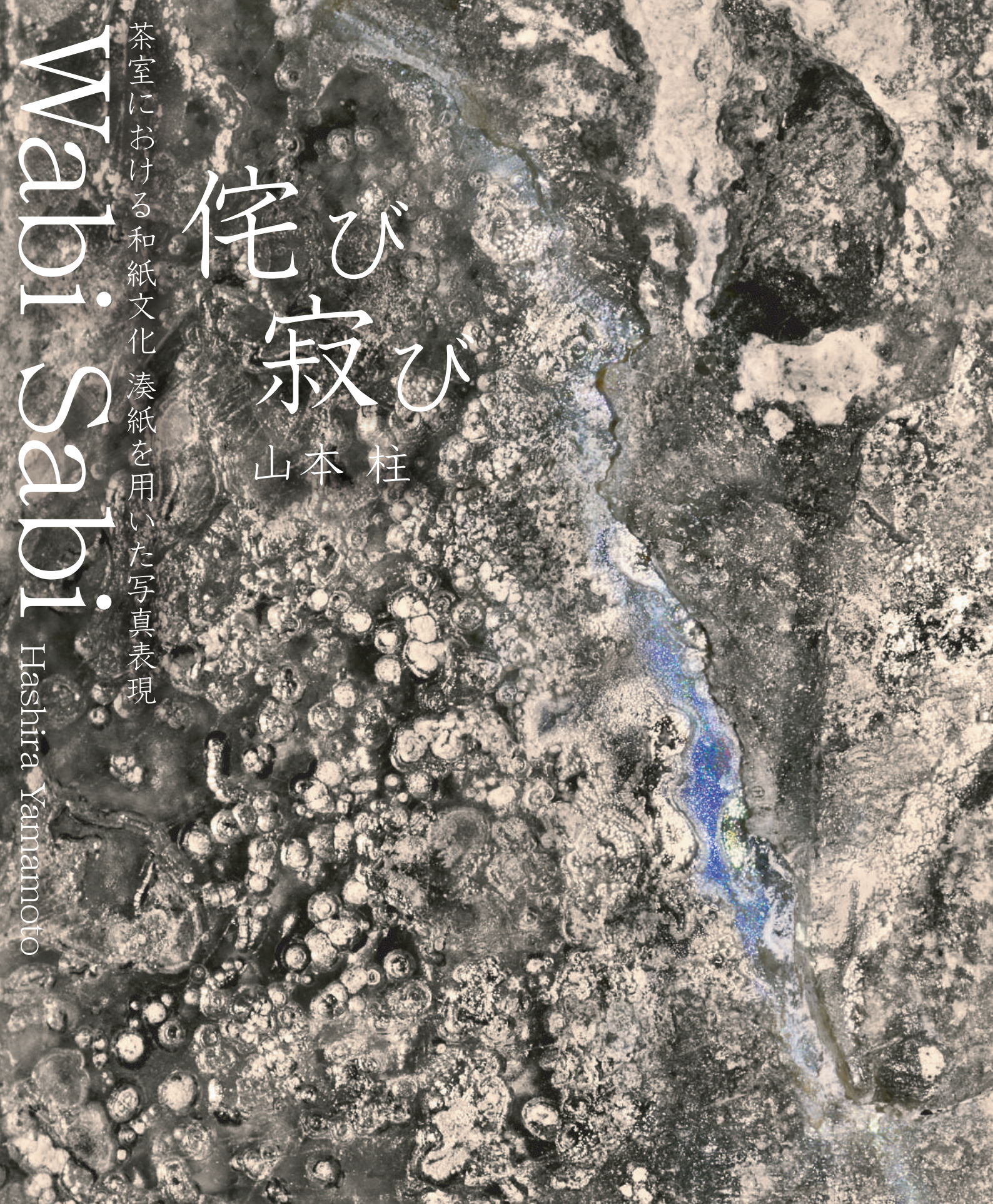




侘び 寂び

山本 柱

茶室における和紙文化 湊紙を用いた写真表現

Wabi Sabi

Hashira Yamamoto

会期 令和4年12月10日[土]～13日[火] 4日間
午前9時～午後6時(初日は12時から/最終入室午後5時)

会場 さかい利晶の杜 三千家茶室(西江軒/風露軒/得知軒)

観覧料 無料(本館をご観覧の際は別途入館料が必要)

後援: 塚本学院校友会(大阪芸術大学・大阪芸術大学短期大学部・大阪美術専門学校)
令和4年度堺市文化芸術活動応援補助金の採択を受け実施しています。

SAKAI
RISHO
NO
MORI

さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

茶室における和紙文化湊紙を用いた写真表現

本展示は、茶室に用いられる湊紙みなとがみの和紙文化を伝えるため、侘び寂びをテーマにしたシルクロードの写真作品を紹介します。茶室には多くの和紙が用いられています。特に、客座の腰壁に貼る湊紙は古く堺の湊地方で漉かれていたことから、湊紙として現在も名を残しています。湊紙を用いた掛け軸、卷子本、額装による写真作品を茶室に展示し、鑑賞いただきます。

「和紙」の侘び

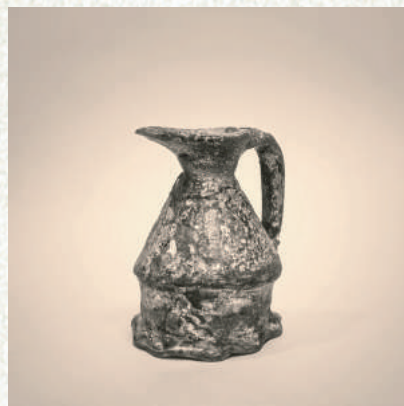
あらゆるモノや情報が手に届く現代において、私たちは不足の美を感じることができるでしょうか。遠い昔、人びとは中国から伝来した紙を、日本独自の素材や製法で和紙として発展させてきました。植物の繊維から漉いた和紙は、現代の印刷物には不完全かもしれませんが、足りないもの一つひとつを観察すると、不十分さの中から心の充足を見出そうとする侘びを感じることができます。

和紙をテーマとする展示では、堺の湊村（現在の東湊町、西湊町、出島町など）で漉かれていた「湊紙」を用いた写真作品の展示物から、侘びを表現します。

「写真」の寂び

アナログからデジタルへ、写真の表現は近年どのように変わってきたのでしょうか。ビックデータを用いてAIが自動で写真を作る時代において、写真で伝えるものや感じるものも大きく変わってきたと思います。電子データ化されるデジタルと時間の経過とともに劣化するアナログ、相反する媒体が一つの世界の中で融合すると、移ろいながら変化していく寂びを見つけることができます。

写真をテーマとする展示では、シルクロード（古来から続く東西を結ぶ交易路）をテーマにデジタルとアナログの技法を用いた写真作品で、寂びを表現します。



Ancient glass / アルビュメンプリント、和紙

第二回Classical photograph®の魅力展
2022.12.7[水]~18[日](12.12[月]休館)
堺アルフォンス・ミュシャ館2F
併設ギャラリーつつじにて開催

主催の古典写真作家の若林久未来作品を
お借りした展示もご覧いただけます。
作家HP：<https://art-kumi.com>

山本 柱 Hashira Yamamoto

1978年生まれ、大阪府堺市出身。博士(工学)化学工学や機械工学を学び、ガラス関連の企業において環境に関する研究開発業務に従事する傍ら、学生時代から続ける旅と写真をライフワークとしている。旅は陸路と海路によるルートが一筆書きとなる道を作ることを旅のスタイルとしている。訪問先の国々においては、各国が抱える環境課題をその場観察するために現地を訪問し、問題を考察している。2020年1月にはユーラシア大陸を陸海路で横断を達成している。また、写真はソラリゼーションやアルビュメンプリント(鶏卵紙)などの古典的技法を得意とし、撮影もさることながら「写真の技法」を作ることにこだわった作品を発表している。

WEBサイト



SAKAI
RISHO
NO
MORI

さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1
www.sakai-rishonomori.com

公共機関でお越しのお客様へ

最寄駅：[阪堺線 宿院駅]より徒歩1分

[南海高野線 堺東駅]よりバスで約6分

[南海本線 堺駅]より徒歩で10分/バスで約3~5分

最寄りバス停：[宿院]下車徒歩1分

